

やしんどさは二の次で、しっかりと前を向いて話されるお姿に、御家族の強さと深い愛情を感じた。ただひと目でもいいから会いたい。声が聞きたい。どう過ごしているのかだけでも知りたいという切なる願いが、ひしひしと伝わってきた。そして、それは決して他人事ではないということをメッセージを見て感じた。

政府はこれまで、北朝鮮に対して、機会あるごとに拉致問題を提起している。最初は否定していた北朝鮮も拉致を認め、謝罪している。そして、五人の拉致被害者が二十四年ぶりに帰国した。その後も、あらゆる手段を使い拉致被害者救済のために全力で取り組んでいる。しかし、今もなお、北朝鮮にいる被害者の情報は少なく、安否もわからないままの状態が続いている。

僕たちにできることは、拉致問題に関心をもち、たくさんの若い人たちにもこの現実を知らせることだ。国と国との問題である前に、

一人の人の尊い人権が侵害された重大な事件
であるという認識が必要だ。これは、どの国
の人々にとっても許されないことだ。この作
文を書くまで知らなかったことがたくさんあ
った。ブルーリボンバッジやその意味につい
ても、調べてみた。ブルーリボンバッジは、
拉致問題の解決を願う気持ちを込めたバッジ。
その青色は、被害者の祖国日本と北朝鮮を隔
てる「日本海の海」を、また、被害者と御家
族を唯一、結んでいる「青い空」をイメージ
している。全ての被害者が、青い空の下で御
家族と、元気に再会する日がくることを願っ
て、拉致問題について考えていくことが、僕
たちができる初めの一步なのだ。